

神社の成り立ちを巡る散策

～兵庫県神戸市を中心として～

目叶 和希

キーワード：神社，神戸，生田裔神八社，延喜式，近代社格制度，神社本庁

1. はじめに

私は毎年の元日に神社に初詣に行く。実家の近くにある敏馬（みぬめ）神社に参拝しに行くのだが、その神社は縁切り神社という別名をもっていた。なぜそのように呼ばれるようになったのかを調べたことがある。どうやら食事に敏馬神社の砂を混ぜて提供するとその人と縁を切ることができる、花嫁集団は敏馬神社の女神の嫉妬を恐れて神社の前を通らないなどの謂われがあるようだ。この話を知り非常に面白く、神社に興味をもつようになった。

神社は日常生活をする中で身近に感じることはあまりなく、出かける際に神社へ足を運んでお参りをするということはほとんどない。しかし私たち日本人は年が明けると初詣をしに神社へ参拝に行く。これは日本人にとって神社の存在が必要とされている証であろう。神社は日本全国に散在している。中には神社のすぐ近くに別の神社があるような地域もある。場所は違うが同名の神社がある。このような神社はなぜ存在しているのか。

本研究では現代における神社について、なぜ存在しているのか、どのようにして成り立ってきたのか、古代から現代にかけての神社制度の変化などに注目しながら神社の存在、意義について明らかにする。そして実際に神社を訪れることによって感じる事、その場の雰囲気や人々の様子を観察するなどして、神社は日本人にとってどういふ存在であるのかということ考察する。

2. 神社制度の歴史

古代、近代、現代ではそれぞれ別の神社制度がある。

古代の神社制度について、律令国家の公的な神祇祭祀の基本を定めた神祇令（757（天平宝字元年））に規定がある。実際の運用となると神祇官記や先例の紀文が使われ、平安時代に入ると弘仁式（820（弘仁11）年）、貞観式（871（貞観13）年）、延喜式（927（延長5）年）が作られ、詳しい運用の細則、手引きとされた。弘仁式、貞観式、延喜式は三大格式と称されている。その中でも延喜式のみがほぼ完全な形で伝えられている。延喜式は全50巻で構成されており、そのうちの1から10巻が神祇官関係の式である。全国の神社の中で、とくに9、10巻の神名式に記載された神社を式内

社と呼ぶ。式内社には社格があり、官幣の大社、小社、国幣の大社、小社に分けられる。官幣社は 573 社 737 座、国幣社は 2,288 社 2,395 座あり、官幣の大社 198 社 304 座、小社 375 社 433 座、国幣の大社 155 社 188 座、小社 2,133 社 2,207 座であった。式内社はその存在を国家的に認められていたのである。

近代の神社制度について、維新政府は 1868（明治元）年の神仏判然令によって、それまでの神仏習合状態から神道と仏教とを分離する方針を打ち出した。さらに 1872（明治 5）年には神社を国家の宗祀とし社家の世襲を廃止する旨の布告を出した。こうして近代社格制度は整備されていった。政府は神社の格を官社と諸社に分類し、当初は官社として 97 社を列格した。官社には、官幣の大中小社、国幣の大中小社があり、諸社には府社、藩社、県社、郷社が置かれた。

現代の神社制度について、古代の神社は延喜式、近代の神社は近代社格制度であるが、現代にはそれらのように制度として定められているものはない。第二次世界大戦が終わり、アメリカが介入してくると神道界に関わるそれまでの制度、行政が一変した。GHQ の神道指令により神社と神道に対する国家管理が終わったのだ。こうした状況に対応するため、神社界は 1946（昭和 21）年に神社本庁を結成し、大半の神社がこれに加わった。神職の養成も神社本庁が中心となって行うこととなり、最初、国学院大学（東京都渋谷区）、次いで皇學館大學（三重県伊勢市）にそのための課程が設けられた。社格が廃止されたことにより全ての神社の立場は対等であるとされているが、もともと官幣大社であったものや規模の大きな神社であったものは、一般神社と同じ扱いをすると不都合が生じることから、神社本庁により別表に掲げる神社として「別表神社」というものがある。別表神社の選定基準は由緒、神社に関する施設の状況、常勤の神職の数、直近 3 年間の経済状況などである。表 1 は兵庫県にある別表神社の一覧である。

表 1 兵庫県にある別表神社

名称	よみ	鎮座地	近代社格制度
伊弉諾神宮	いざなぎじんぐう	淡路市	官幣大社
廣田神社	ひろたじんじゃ	西宮市	官幣大社
生田神社	いくたじんじゃ	神戸市	官幣中社
長田神社	ながたじんじゃ	"	官幣中社
海神社	わたつみじんじゃ	"	官幣中社
湊川神社	みなとがわじんじゃ	"	別格官幣社
出石神社	いずしじんじゃ	豊岡市	国幣中社
伊和神社	いわじんじゃ	宍粟市	国幣中社
西宮神社	にしのみやじんじゃ	西宮市	県社
射櫛兵主神社	いたてひょうしゅじんじゃ	姫路市	県社
廣峯神社	ひろみねじんじゃ	"	県社
赤穂・大石神社	あこう・おおいしじんじゃ	赤穂氏	県社
多田神社	ただじんじゃ	川西市	県社
姫路護国神社	ひめじごくじんじゃ	姫路市	護国社
神戸護国神社	こうべごくじんじゃ	神戸市	護国社

出所：URL〔神社と古事記 HP〕より作成

3. 神社の種類と数

日本にはどのような神様が多く祀られているのか。

表 2 は種類別の神社数である。現在日本で最も数が多い八幡神社は応神天皇、神功

皇后をはじめとする神様をお祀りしている。次に数が多い伊勢の神宮は天照大神（あまてらすおおかみ），3番目に数が多い天神社は菅原道真公をお祀りしている。

神社の数は時代毎に移り変わっている。表3は時代ごとのおおよその神社数の推移である。鎌倉時代から明治時代にかけては神社の数が増え続けている。しかし明治時代になると神社合祀が進められ，大正時代にはその数を減らしている。そこから現代になるとさらに数を減らし81,040社である。日本全国にあるコンビニエンスストアの数は56,576軒であるので，コンビニエンスストアよりも神社の数が多いということになる。都道府県別に見てみると（表4），コンビニエンスストア1軒あたりの人口に比べ，神社1社あたりの人口に大きなばらつきがあることから，都道府県によって神社への関心に差があることが分かる。

表2 種類別神社数（2018年）

神社	数
八幡信仰	7,817
伊勢信仰	4,435
天神信仰	3,953
稲荷信仰	2,970
熊野信仰	2,693
諏訪信仰	2,616
祇園信仰	2,299
白山信仰	1,893
日吉信仰	1,724
山神信仰	1,571
.....
住吉信仰	約600
.....

出所：URL〔神社チャンネル〕
より作成

表3 時代ごとの神社数の推移

世紀	時代	おおよその神社数
13世紀	鎌倉時代	10,000
16世紀	室町時代	98,000
19世紀	明治時代	190,000
20世紀	大正時代	110,000

出所：國學院大學日本文化研究所（1994）より作成

表4 都道府県別の神社数とコンビニ数

No	都道府県	人口（人） 2015年	神社の数 2018年	1社あたりの 人口（人）	コンビニの 数 2018年	1店あたりの 人口（人）
1	北海道	5,381,733	796	6,724	2,981	1,805
2	青森県	1,308,265	885	1,461	588	2,225
3	岩手県	1,279,594	868	1,461	539	2,374
4	宮城県	2,333,899	947	2,460	1,162	2,009
5	秋田県	1,023,119	1,146	881	472	2,168
6	山形県	1,123,891	1,746	637	446	2,520
7	福島県	1,914,039	3,055	622	865	2,213
8	茨城県	2,916,976	2,490	1,167	1,421	2,053
9	栃木県	1,974,255	1,915	1,027	910	2,170
10	群馬県	1,973,115	1,212	1,623	796	2,479
11	埼玉県	7,266,534	2,022	3,605	2,913	2,495
12	千葉県	6,222,666	3,182	1,960	2,675	2,326
13	東京都	13,515,271	1,455	9,364	7,320	1,846
14	神奈川県	9,126,214	1,139	8,029	3,768	2,422
15	新潟県	2,304,264	4,729	483	834	2,763
16	富山県	1,066,328	2,277	466	501	2,128
17	石川県	1,154,008	1,889	609	511	2,258
18	福井県	786,740	1,711	457	346	2,274
19	山梨県	834,930	1,285	646	457	1,827
20	長野県	2,098,804	2,460	849	939	2,235
21	岐阜県	2,031,903	3,272	618	884	2,299
22	静岡県	3,700,305	2,845	1,296	1,730	2,139
23	愛知県	7,483,128	3,357	2,236	3,705	2,020
24	三重県	1,815,865	850	2,127	812	2,236
25	滋賀県	1,412,916	1,442	980	561	2,519
26	京都府	2,610,353	1,756	1,483	1,086	2,404
27	大阪府	8,839,469	729	12,117	3,963	2,230
28	兵庫県	5,534,800	3,856	1,432	2,041	2,712
29	奈良県	1,364,316	1,386	978	465	2,934
30	和歌山県	963,579	444	2,149	363	2,654
31	鳥取県	573,441	825	691	241	2,379
32	島根県	694,352	1,171	589	267	2,601
33	岡山県	1,921,525	1,656	1,156	748	2,569
34	広島県	2,843,990	2,783	1,019	1,108	2,567
35	山口県	1,404,729	753	1,851	537	2,616
36	徳島県	755,733	1,308	573	334	2,263
37	香川県	976,263	801	1,213	419	2,330
38	愛媛県	1,385,262	1,250	1,100	590	2,348
39	高知県	728,276	2,172	332	286	2,546
40	福岡県	5,101,556	3,414	1,495	2,256	2,261
41	佐賀県	832,832	1,106	749	366	2,275
42	長崎県	1,377,187	1,325	1,032	504	2,733
43	熊本県	1,786,170	1,388	1,278	742	2,407
44	大分県	1,166,338	2,124	546	486	2,400
45	宮崎県	1,104,069	677	1,619	423	2,610
46	鹿児島県	1,648,177	1,128	1,451	666	2,475
47	沖縄県	1,433,566	13	110,692	549	2,611
	計	127,094,745	81,040	1,568	56,576	2,246

出所：URL〔文化庁HP〕，URL〔M.Higashide〕より作成

4. 神社の散策

兵庫県の神戸市にある生田神社と、それを取り巻く8つの神社である生田齋神八社へと赴いた。生田神社を出発し、神功皇后がお参りされたといわれている通りに一宮神社から数字の順番に巡った(図1)。

生田神社に10時30分に到着し、七宮神社に到着する頃には13時15分になっていた(表5)。2時間45分の行脚で歩行距離は約11km, 20,773歩だった。生田神社で始まったとき、七宮神社で終わったときとは、まるで別の世界にいるような感覚に陥った。

生田神社の水占いなどでの集客や、三宮神社の写真を撮ってのご利益などは、商売として神社を運営しているという印象を受けた。有名であるということも要因の一つであると思うが、いわゆる訪れた人がSNSにあげることによる広告宣伝効果も神社に人が訪れる要因になっているとも思われる。実際にTwitter社が運営するSNSを見ても、生田神社の華やかさに惹かれたり、テレビ番組で特集を見たり、水占いをしたいから訪れたりしている人の様子が多く見られた。

それに対して、五宮神社や八宮神社は昔ながらの神社、というような印象を受けた。古代のように神社が権力をもって周辺が栄えているという訳ではないため、実際に昔ながらではないのだが、日本らしい静かな詫び寂びをまさに体現しているようだった。

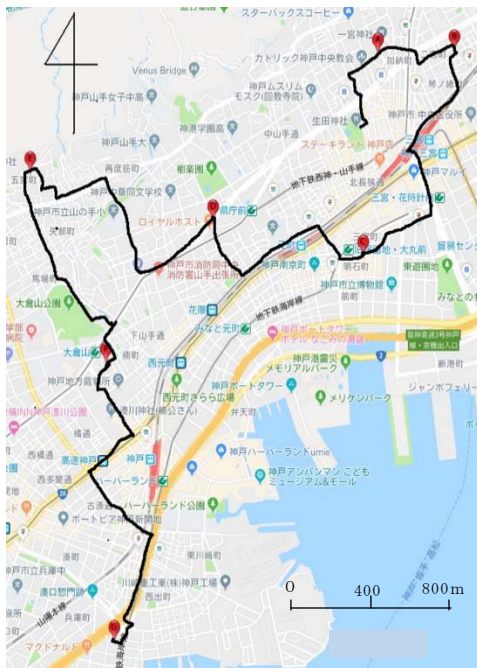


図1 生田齋神八社巡りの経路

出所: google my map より作成

表5 生田齋神八社巡りの行程

時刻	場所	往路
9:15	自宅	車
10:30	生田神社	
10:42		一宮神社
10:52	二宮神社	
10:56		三宮神社
11:05	四宮神社	
11:08		五宮神社
11:32	六宮神社	
11:38		七宮神社
11:54	八宮神社、六宮神社	
11:59		七宮神社
12:21	七宮神社	
12:26		七宮神社
12:43	七宮神社	
12:47		七宮神社
13:15	七宮神社	
13:20		七宮神社
15:00	自宅	

出所:筆者作成(2019年1月6日(日))

5. おわりに

私のもっていた神社のイメージは、神様が眠っている所であるし、厳かであり神秘的な場所であるというものだった。実際に神社へ足を運んでみると、確かにゆったりとした時間が流れるような、俗世とは少し離れた雰囲気を感じるイメージどおりの神社もあったのだが、非常に活気があり参拝者が笑顔で楽しんでいる様子が見られる、派手でありイメージとは正反対の神社もあった。どちらが現代の神社として正しいかというのは決められることではないのだろう。

本研究で神社に対する知識が大幅に増え、神社のあり方に対する自分の考えをもつことができた。今後も神社がどのようになっていくのか、人々の神社に対する関心などを追いながら研究を続けていきたい。

参考文献

國學院大學日本文化研究所（1994）『神道辞典』弘文堂, 830p.

兵庫県神職会（1937）『兵庫縣神社誌 上巻』臨川書店, 1315p.

兵庫県神職会（1940）『兵庫縣神社誌 付録』臨川書店, 96p.

参考 URL

神社チャンネル「全国の神社数・都道府県ごとの数・神職数」

<https://zinja-omairi.com/>（2019（平成 31）年 1 月 14 日アクセス）

神社と古事記「別表神社とは？」

<http://www.buccyake-kojiki.com/archives/1043052429.html>

（2019（平成 31）年 1 月 14 日アクセス）

M, Higashide「都道府県別データランキング」 https://uub.jp/pdr/m/c_9a.html

（2019（平成 31）年 1 月 14 日アクセス）

文化庁HP <http://www.bunka.go.jp/index.html>（2019（平成 31）年 1 月 14 日アクセス）

A Walking around History and Presence of Japanese Shrines -in Kobe City, Hyogo-

MEGA Kazuki

Key Words : Shrine, *Kobe*, *Ikuta eishin hachisya*, *Engishiki*(Old system of shrine),
Modern system of ranked shrines, *Jinja honcho*(Association of shrine)